©海事プレス社2026 禁無断転載

10月前年比23%減、繁忙期の増勢見えず

■中国・香港発EU向け貨物便

蘭Aeveanの分析によると、中国・香港発の欧州連合（EU）27カ国向け貨物便輸送力は、2026年10月に前年同月比23%減となった。7～9月の前年同期比13%減から減少幅が拡大し、例年の繁忙期に見られる輸送力の積み増しは確認できなかった。

分析は中央アジアでの技術着陸を含む貨物便を対象に、1日当たりの輸送力を過去7日間平均で比較したもの。4～6月は前年同期比22%増だったが、7月以降は前年割れに転じた。直近の11月4日までの7日間も前年同期比17%減となった（**図参照**）。

EUは7月1日、少額輸入貨物に対する3ユーロの定額関税を導入。11月1日には、域外からのeコマース（EC）貨物を対象とする商品1点当たり2ユーロの取扱手数料も導入した。Aeveanは、7月の関税導入後に前年との輸送力の差が広がり、手数料導入を前に約2割低い水準となったと指摘する。

10月初めには輸送力が一段と落ち込んだ。同社は、中秋節から国慶節にかけての休暇の影響で、今年の落ち込みが深くなったと説明している。

EU27カ国の内訳は、アイルランド、イタリア、エストニア、オーストリア、オランダ、キプロス、ギリシャ、クロアチア、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、マルタ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク。

